

令和6年度行政評価・外部評価結果について

1. 外部評価の目的

市で行った行政評価（内部評価）の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、第5次総合計画を効果的・効率的に推進し、めざす将来都市像の実現を図る。

2. 評価対象及び実施方法

第5次総合計画基本計画の全38施策を対象とし、河内長野市行財政評価委員会において外部評価を行った。38施策のうち、重点施策として選定した3施策は会議で評価を行い、その他の35施策は書面にて評価を行った。

【令和7年度評価対象重点施策】

- ・施策No.3 防犯対策の推進
- ・施策No.18 人権と平和の尊重
- ・施策No.20 多文化共生と国際交流の推進

3. 評価方法

市内部で行った施策評価結果を、以下の視点により評価し、各施策を「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」のいずれかに分類する。

【視点1】住みよさ指標、10年後のめざす姿に対する達成度

- ・施策評価シートの記載内容について妥当性を検討

【視点2】施策の展開及び事業の実施内容の妥当性

- ・施策を推進するために取り組んでいる事業が、施策の目的達成につながるものであるか、実施手法は妥当であるかを検討

4. 評価結果

別紙「令和6年度行政評価・外部評価結果一覧」のとおり

■令和6年度行政評価・外部評価結果一覧

No	施策	評価区分	意見・コメント
1	危機管理・防災対策の推進	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・成果に関する記述を見ると、ハードの整備に加え、ソフト部分で、高齢化にかかわらず、住民の組織化にも尽力されていることが分かる。一方で、コロナ禍前の水準に戻すということにまでは至っていないという課題があるようにも思料された。簡単なソリューションはないが、今年5月の災害対策基本法改正（被災者援護協力団体登録制度等）も踏まえ、府内で対策強化の方向性をご検討され、その結論が見えるような形で記載にすることが望ましいのではないか。 ・市民の防災意識を高める努力を引き続き期待する。 ・大規模地震発生時における市民の安否確認について、箕面市の例のように自治会や町内会に要請したらどうか。被害が広域に及ぶ場合は、市、消防、警察も対応が困難になることが予想されるため。
2	消防・救急・救助体制の強化	・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0	・住宅用火災警報器の設置率が比較的大きな振れ幅をもって上下している。なぜこのようなことが起こるのか、その理由の記載があればよかったです。 ・火災報知器設置が伸び悩んでいるが、シートにもあるように消防局との分担を明確にして対策に当たってもらいたいところ。 ・火災の原因としてコンセントの老朽化や埃が挙げられています。一人暮らしの高齢者が多いのでそれらの周知徹底を進めてほしい
3	防犯対策の推進	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・府内33市の中で犯罪率が低いことが評価されたが、市民の意識向上や社会的孤立の増加、刑法犯の認知件数が近年（令和4年以降）徐々に増加している点は懸念として指摘された。対策としては、警察と情報を共有し連携、市民に注意喚起を図ることや、防犯環境の整備を行うことが重要である。具体的には、増加傾向にある特殊詐欺対策については、自動通話録音装置の無償貸与について警察との連携協定による設置促進や、啓発チラシの配布、また、防犯環境の整備としては、年間計画に基づき防犯カメラの設置・公設化が進められているとの説明があった。また、市が防犯カメラの維持管理・更新を引き受けたことは評価されたが、一方で、防犯灯や防犯カメラの設置・維持に関する公私の負担ルールの明確化が必要であり、カメラの無差別大量設置には慎重であるべきとの意見も出た。
4	交通安全対策の推進	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・全体としては良好なパフォーマンスとなっているが、高齢者関連事故が目標設定近傍ながら横ばいで、低下傾向にないところは現状に満足せず対策が今後必要であると思われる。
5	消費生活の安定と向上	・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0	・実際の相談件数、若年層を対象とした情報提供の取組など、丁寧な仕事ぶりがうかがえるものの、講演会の参加者数は、集計方法を変えたということであったとしても、コロナ禍前の水準を回復してきているとは評価できなかった。今後は、LINEの活用など、異なる情報提供方法の充実につとめるとともに、数値目標の設定方法の変更も含めて検討を行うことが望ましい。 ・今後、消費生活講座受講者数のそもそも目標設定の妥当性について検討する必要があると思われる。 ・「いちのいち」に市から発信される「見守り新鮮情報」はわかりやすく、大変効果的である。プッシュ型で受信されるため、ホームページに掲載するのに比べて目にする市民が多い。
6	地域福祉の推進	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・E評価となっているが、着実に地域福祉活動への参加者は回復してきており、また関連指標の動向も踏まえ、妥当と判断した。 ・実績は目標値には届かないものの、改善の方向が見られる。各指標について人口比で参加率をとると違う評価ができるのではないか。D評価でも良いと思われる。
7	高齢者福祉の充実	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・健康サポート体制の整備は進みつつあるが、高齢者自らの活動（シルバー人材、老人クラブ団体）の活性化を望みたい。これらはフレイルの防止にも寄与する。 ・高齢者にとっての暮らしやすさに関する市民満足度が目標値になかなか達成していない。高齢化の進む河内長野市において目標値を達成することが重要と思われ、今後具体的な施策が必要ではないか？
8	障がい者福祉の充実	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・バリアフリー社会実現のため、合理的配慮の周知徹底をお願いしたい。

No	施策	評価区分	意見・コメント
9	社会保障制度の適正な運営	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・生活困窮者やひきこもり状態にある市民やその家族への支援に関しては、一般に市役所による取組とともに、市民団体との連携の充実が重要であり、本市におけるその動向を含めて検討できる指標の設定ができるのか、検討がなされることが望ましいのではないか。 ・各目標の現状の達成状況は良いが、疾病予防に結びつく特定健診受信率の低下が懸念される。社会保障制度の持続可能性を担保するために10の施策とともに取り組みを強化してほしいところ。
10	健康づくりの推進と医療体制の充実	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・担当課の自己評価にあるように検診受診数は確かに伸び悩んでいるように見える。簡単なソリューションがあるとは思えないが、啓発方法の見直しや、ほかに関係する要因を検討し、それを今後の方向性として書き込むべきではないか。 ・疾病予防が重視されている中、特定健診受診率、健康指導実施率の向上が喫緊の課題と思われる。
11	児童福祉の推進	・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0	・あらためて考えると、児童扶養手当支給停止が書類不備や現況届未提出など形式的理由による場合もあるので、児童福祉の充実度をどのように正確に反映するのか、別の指標設定ができるのか、検討が必要であると思料する。 ・児童扶養手当支給停止者数を目標とすること自体、外生的な要因も大きいため、行政として何ができるのか疑問。
12	子育て支援の充実	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・ファミリーサポートの一人親家庭の利用回数が目標設定値を大きく下回っているが、その理由について分析する必要がある。また、待機児童ゼロは少子化といったたまたま追い風?のせいもあるのではないか。
13	学校教育の充実	・妥当 2 ・概ね妥当 2 ・要検討 1	・学校教育関係者のご努力に敬意をもちつつ、一方で不登校児童・生徒数の増加がたいへん気になった。考えるに、こども基本法・こども大綱以降であるのにもかかわらず、子どもの権利一般に関する言及がないこと、子どもたちの意見表明権の保障が子どもの自己肯定感とも密接につながることは数多くの調査が示すところであるも、意見表明権保障について言及がないことについて懸念をもった。 ・学校のハード面の整備については進んでいると見られるが、不登校。いじめは目標を大きく下回っているのではないか。取り組みと効果の発現が急務である。 ・不登校児童・生徒数、いじめ認知件数は年々実績値が上がっているが設定値はむしろ減っている。このあたりの数値設定の根拠が不明。
14	青少年の健全育成の推進	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・施策番号13と同様、こども基本法・こども大綱以降であるのにもかかわらず、子どもの権利一般に関する言及がないことが気になった。総計に記された方向性を着実に実施しながら、国政や社会の動向を正確に踏まえ、人権担当部署等との連携をより密にして、この分野でも取組を更新していくことが重要である。 ・少年犯罪者数を数ではなく、人口比など率で見た場合の推移についても併せてチェックしておいてもらいたい。
15	生涯学習の推進	・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0	・記述からたいへん多様な取組を展開されていることが分かるが、施設や講座等の利用者数・参加者数に関する目標値と実績値に大きな乖離が存在する。目標値の設定の妥当性についてあらためて検討が必要なのではないか。 ・実績は上向きだが、目標との乖離が依然として大きい。今後人口比にするなど目標そのものの立て方について要検討。
16	歴史文化遺産の保存・活用及び文化芸術の振興	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・目標数値には届かないものの、全体として改善方向にあると言える。地域資源を活かせる分野なのでさらなる改善を期待したい。
17	生涯スポーツ活動の振興	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・施策番号15と同様、施設の利用者数に関する目標値と実績値に大きな乖離が存在することについてはより現実的に目標値設定を行うべきではないだろうか。 ・実績がどの指標も計画当初を下回っているが、それが貴市における人口減少や高齢化にどれほど影響されたのかについて検証しておく必要がある。

No	施策	評価区分	意見・コメント
18	人権と平和の尊重	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・目標値と実績値の乖離が指摘され、計画途中での指標変更の容認、インプット・アウトプットに加えアウトカム（市民意識の変化等）を評価するべきとの提案があった。各担当部局にアウトプット・アウトカムの評価方法を考えるよう促し、総合計画担当が年次アンケートなどを実施して各部局に質問項目を割り当てる仕組みが示唆された。また、行政の啓発事業や内部の意識啓発だけでなく、地域の町内会や自治会での差別問題への取り組みが重要であると指摘された。住民自治側の課題も総合計画に反映させるべきとの意見が出された。部落問題に関する差別の現状についての質問があり、現在も差別は水面下に存在しており、SNSやネット上での差別的な情報の拡散が問題となっている状況との説明があった。こどもの人権問題についても課題であるという意見があり、担当課間の連携強化が求められた。総じて評価自体は妥当とされたが、人権擁護委員への相談件数の少なさは課題であり、その原因究明と民生・児童委員等との連携を含む全体設計の見直しが必要と結論付けられた。
19	男女共同参画の推進	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・行政自らが率先してアクションを起こし成果を出せる目標設定になっているので、一層の向上を目指してもらいたい。
20	多文化共生と国際交流の推進	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・自己評価が厳しすぎるのではないかという意見が多く、時代に応じて指標を弾力的に変更できる仕組みや、学校現場での成果や相談件数など多様な評価指標を導入すべきという提案があった。また、国際交流協会の活動は評価されたが、周知・広報が不足しているとの指摘があった。あわせて外国籍の子どもの対応についても担当課間の連携強化が求められた。少数言語対応や外国籍市民の生活支援は、国際条約上の人権保障の観点からも重要であり、行政と市民団体の連携が求められた。
21	自然環境の保全・活用	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・取組は、天候による影響を除き、予定どおり進められているが、全体として市民の満足度が芳しくないことを受け、一層の市民団体との連携や広報活動の強化が求められていると思料する。 ・アライグマの駆除数 281頭にびっくり！！
22	循環型社会の構築	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・リサイクル率が減少していることが大変残念である。 ・リサイクル率の低下傾向が気になるところ。市民への周知に問題があるのかどうか、その原因は何か明らかにされたい。その他の指標については問題ない。 ・公設ゴミステーションの設置は大変便利に使っているとの声をよく聞きます。
23	快適な生活環境の確保	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・どの目標値も達成できており問題はないと思われる。
24	魅力的な景観の形成	・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0	・景観に関するルールの策定に関して、ずっと0件が続いていることについての説明が必要ではないか。 ・そもそも景観に関するルールの策定件数を目標にすることに無理があつたのではないか。既存ルールがどの程度市民に周知され、守られているかを測るような目標設定が今後必要と思われる。 ・例年の目標値が1にもかかわらず、R6で目標値を2に引き上げた根拠が不明。実績はずっと0
25	市街地整備の推進	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・計画策定と計画の進捗率の両睨みで順調に事業が進められていると見られる。
26	住宅環境の充実	・妥当 2 ・概ね妥当 3 ・要検討 0	・公共性を有する建物の耐震化も重要であるが、いずれの自治体においても、一般住宅の耐震化をどう高めるかも非常に重要な課題となっている。本市においては、これがうまく進まない要因について一定の分析がなされているが、その結果を踏まえ、今後、どう取り組むのか、その記載が前年度とあまり変わっていないことが懸念される。 ・若年世代の転入を狙っていきたいこの分野では、今後、空き家関連の指標も導入して目標設定と評価を行うのも一案かと思われる。
27	公園・緑地の整備	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・遊具改修が令和6年度に大きく低下しているが、これは前年度までで一巡したという理解で良いか。

No	施策	評価区分	意見・コメント
28	道路基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・財源の問題については国土強靭化に関連する国の予算とも関係することであるので、自治体のできる範囲を越えていると思う一方で、他自治体では予防保全型修繕や民間委託などのオプションと探つて、橋梁耐震化を進めているとも聞いているので、もう少し説明があるとよりよい評価になったと思われる。 ・今後メンテナンスが重要となる分野であるので、今後、行政評価の比重を高める必要がある。アドプロ・ロード・プログラム団体数が本分野の目標と定められていることについて御教示いただきたい
29	公共交通の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者の採算との関係で難しい面もあるが、市民の不満足度を低めすることが、高齢化に直面する本市の持続的成長のためにも喫緊の課題であると思われる。
30	上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・コストのかかることであるため、簡単にはいかないと思われる一方、上水道管路の耐震化率については、最終的に一体何年間かかるのかが気になった。 ・今後、他自治体で深刻な問題となっている上水道の老朽化対策についても目標値の設定が必要と思われる。
31	商工業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・数値的な目標は達成できているが、商業地の賑わいといった感覚的な評価の点では更なる努力が必要と思われる。 ・製造品出荷額、法人市民税納税事業所数については次年度以降の目標値を高く設定するのが好ましいと思われる。
32	農林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者数の増加は簡単なことではないが、一方で、本市は都会から遠くないという地理的条件を有している。その意味で、半農半Xを志望する若年層などの定住を促すような方策を検討し、その結果を今後の方向性のところに書き込めないだろうか。担当課は河内材のプロモーションでは一定の存在感を見せておられるので、新規就農者に関するマーケティングの視点で検討を行っていただくことが期待される。 ・高齢化、後継者難が続く中で当該分野の持続可能性を担保する目標値が実際どの程度なのか、検証してほしいところ。
33	観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市は観光資源、すなわち、自然や歴史的意義ある施設が豊富であるという特徴を有している一方、受入体制がなお改善の余地を残していると思料される。たとえば、伸び悩んでいる観光ボランティアについては、府内の関係部署やかわちながのボランティア・市民活動センター等と相談しながら、対応を検討し、その結果を今後の方向性にも記載することが望ましい。 ・全国的なインバウンド需要が期待される中、地域資源を活かして、より高みを目指してほしい分野である。
34	雇用の確保と就労・労働環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・有効求人倍率は景気など外生的な要因に左右されがちなので、行政目標として掲げることは妥当なのかどうか、相談件数や解決率など行政として制御可能な目標を検討してはどうか。
35	都市ブランドの構築と魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な自己評価の結果はCであったが、委員会で説明のあった全職員参加型のブランドメッセージの決定やその結果を分かりやすく伝えるためのブランドブックの作成といったユニークな取組は高く評価されるべきものと思料する。 ・本年度策定中の新計画で重視されるところとなつており、市民の意識の涵養に向け一層取り組まれることを期待したい。
36	協働の推進と地域コミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当 3 ・概ね妥当 2 ・要検討 0 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に記された今後の取組の方向性と今年度に記された取組の方向性がほぼ同じである。いつまでにどのように取組を進めるのか、予定どおり行かなかった場合はなぜそのようになったのかに関する丁寧な記述がほしい。 ・高齢化の進展という逆風の中での取り組みとなるが、引き続き重要な行政課題分野と認識している。 ・地域交流アプリ「いちのいち」の利用については、経費の助成が望まれ、また、利用地区の拡大については、先進地区の人材を利用した近隣地区に対する取り組み支援が期待される。

No	施策	評価区分	意見・コメント
37	効果的・効率的な行政運営の推進	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・電子化はよく進んでいると見られる。市民側のリテラシー、認知度向上により、より効率的な活用を期待したい。
38	健全な財政運営の推進	・妥当 4 ・概ね妥当 1 ・要検討 0	・比較的良好な財政状況と思われるが、寄付金についてはそもそも目標設定値が高すぎたところはないか要検討。
	総評		・河内長野市のすべての行政施策、分野において、住民自治において担われるべきこと、団体自治においてなすべきことを峻別し、その現状分析をもとにした課題設定に据え直し、その課題解決に向けた具体的な施策プログラムと、目標指標設定に据え直す、という作業が必要な分野が多く見受けられます。総合計画の見直し作業や、今後の行財政改革及び行政評価においては、この視点を明確化していかれるべきかと存じます。